



平成26年5月末から新しい外来で診療開始となりました。当初、新しく利用者のみならずスタッフもどきまぎしていましたが、段々慣れて使い勝手も良くなってきたとおもいます。何かお気づきの点があればお知らせ下さい。

新しい五稜会病院です。

今後、精神科医療はどんどん変わっていきます。厚労省では、平成24年6月28日、「精神科医療の機能分化と質の向上等に関する検討会」で今後の方向性に関する意見の整理を行いました。そこには、機能分化を進めた場合の今後の入院患者のイメージとして、精神科病床は急性期病棟を中心に据え、長期入院者については、「重度でかつ慢性」患者のみが入院の対象であって、軽度な方は退院支援を推し進め、アウトリーチ（訪問支援）や外来医療などの入院外医療の充実を図るとしています。

五稜会病院では、既に数年前から長期入院者の退院支援を行い、実績を挙げてきています。社会で生活することが、患者さんのニーズであれば、ご家族のご要望も含めて、社会資源を活用しながら、退院の準備をお手伝いしていきたいと考えております。

昔ながらの精神科医療は既に終わっています。五稜会病院は、「ひとに優しい精神科病院」を目標に、新たな精神科医療を切り開いていく所存です。

医療法人社団五稜会病院理事長：中島公博

五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

- 1 患者さんの病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
- 2 医療の情報開示を行い、患者さんとの信頼関係を大切に医療を行う。
- 3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
- 4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

学会・研究発表

当院の研究発表については病院のホームページにも掲載しておりますのでご覧下さい。常に最新の医療を提供出来るように、日々努力しております。今回は学会・研究会以外の医局・心理室の合同の勉強会の内容も紹介します。

- ★平成26年7月15日 第12回五稜会病院院内学会
五稜会病院では各職種が、盛んに学会・研究会で発表しています。今回は新外来・病棟完成に因み、理事長の特別講演を行いました。

秋は学会シーズン。以下は当院での発表内容です。

- ★平成26年8月28日 第47回日本カウンセリング学会
『過食嘔吐があり、入退院を繰り返していた女性との心理面談 ～両親の思いを理解することで、成長が促された事例～』 福原佑佳子
- ★平成26年9月5、6日 第22回日本精神科救急学会
『急性期病棟における発達障害を抱える患者へのグループセミナー立ち上げの取り組み』 吉野賀寿美
『短期間で急性期病棟への入退院を繰り返した衝動性の高い患者の看護、安定した状態で退院を迎えるまでの支援』 鈴木大輔
『精神科急性期病棟における倫理カンファレンスを通じた看護師の意識変化』 鈴木美伸
- ★平成26年9月10-12日 第78回日本心理学会
『精神科患者に対する WAIS - III簡易実施法の有用性』 春名大輔
- ★平成26年10月5日 第37回日本精神病理学会
『解離性同一性障害における底という存在依拠の場』 千丈雅徳
- ★平成26年10月10、11日 第3回日本精神科医学会
『入院の長期化傾向がみられる思春期・青年期患者ケースの特徴について～退院が困難になる要因の分析を通して～』 本多健太郎
『看護倫理カンファレンスを導入しての看護スタッフの意識変化』 齊藤恭央
『ステップハイスステップ方式を用いた SST と作業療法場面を併用した対象者との関わり』 矢崎秀幸
- ★平成26年11月1-3日 第40回日本認知・行動療法学会
『リワークプログラム利用者への職場復帰後支援～早期脱落防止とスキルの実践応用の促進・定着を狙いとしたフォローアップセッション～』 中村 亨

患者さんの権利綱領

五稜会病院の職員は、患者さんの次の権利を順守して日々の医療を行います。

- 1 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
- 2 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
- 3 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
- 4 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
- 5 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
- 6 希望によりセカンドオピニオン（他の医師の意見を聴くこと）を受ける権利
- 7 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

病院トピックス

平成26年9月、10月と、他の病院スタッフの当院の施設見学が相次ぎます。

- 秋田緑ヶ丘病院 11名
秋田県秋田市にある精神科病院です。平成26年春にストレスケア病棟8床をオープンさせたことから、当院のストレスケア・思春期病棟を中心に見学に來られました。採算を度外視した？スタッフ配置やカウンセリング重視の姿勢に感銘していました。
- 日本精神科病院協会（日精協）通信教育受講者ならひに講師の先生方 25名
日精協の通信教育第46回「基礎コース」は、全国から受講生を迎え、4月に開講。そのうちで重要な必修科目のスクーリングは、9～10月に全国約10ヶ所で開催しており、北海道では五稜会病院が選定されています。

最近の精神科医療政策のご紹介

平成26年6月1日、改定道路交通法が施行されました。一定の病気を原因とする事故を防ぐため、安全な運転に支障をおよぼす恐れがある病気にかかっている人等の的確な把握と負担軽減を図るためとしています。これに先立ち、自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律（自動車運転死傷行為処罰法）が、本年5月20日から施行されています。本法第三条には危険運転致死傷として、①アルコール又は薬物の影響により正常な運転が困難な状態、または正常な運転に支障が生じる恐れがある状態で自動車を走行する行為により人を死傷させた場合と、②自動車の運転に支障を及ぼす恐れがある病気として政令で定めるものの影響により、その走行中に正常な運転に支障が生じる恐れがある状態で、自動車を運転し、その病気の影響により正常な運転が困難な状態に陥り、人を死傷させた場合の2つが規定されています。適用対象となる病気は、統合失調症、低血糖症、躁うつ病、再発性失神、重度の睡眠障害、意識や運動の障害を伴うてんかんの6種です。この2つの法令施行に伴い、精神疾患の患者さんが薬剤を服用する上で、自動車運転について頭を悩ますことが増えそうです。

本年5月、米Googleは開発中の自動運転車の試作車を披露しました。ダッシュボード部分にステアリングホイール、ブレーキ/アクセルペダルはなく、ボタンで発車/停車します。また、トヨタ自動車や米ゼネラル・モーターズなど日米の自動車製造大手は、自動運転車の実用実験に使う施設を今秋にも共同で建設し、米運輸省とも連携して、7年後の実用化に向け安全性を検証するそうです。近未来は病気や薬のことも考える必要もなく自動運転車が走ることになるのかもしれませんが、それまでは、疾患のみならず、服薬している運転を曖昧なものにせず何らかの基準や制度を設けるべきではないかと思えます。

当院は患者さん本位の医療を提供しようと
考えております。
お気づきの点はお相談下さい。

治験のご協力をお願い

現在、当院では「うつ病」、「躁うつ病」、「統合失調症」、「強迫性障害」に対する薬剤の臨床治験を行っております。創薬（薬を創りだす）は国家戦略の一部になっていきます。臨床治験を行わないと、良い薬を世の中に出すことは出来ません。参加される方には負担軽減としての費用を差し上げています。詳しく知りたい方は主治医にご相談下さい。

難治性うつ病
色々な抗うつ剤を使用してもなかなかうつ状態が改善しないこともあります。当院では一般的な抗うつ剤でも効果不十分なうつ病の患者さんへの治験を実施中です。
強迫性障害(OCD)とは
不潔恐怖があり長い時間をかけて手洗いを行う、鍵をかけたかどうか不安になり何度も確かめられない気が済まないなどの症状があります。

五稜会病院 概要

標榜科名：精神科・心療内科・内科・消化器科

病床数	193床		
急性期病棟	48床		
ストレスケア・思春期病棟	48床		
療養病棟 A	49床		
療養病棟 B	48床		
従業員数	約 200名		
医師数	常勤 8名	非常勤	4名
看護師	84名		
薬剤師	2名		
臨床検査技師	2名	非常勤	2名
臨床心理士	8名	非常勤	4名
作業療法士	8名	音楽療法士	1名
精神保健福祉士	10名		

五稜会病院沿革
開設 昭和47年
医療法人開設 平成2年

編集後記

8月もあつという間に終わり、これから秋本番です。食欲の秋、運動の秋です。秋は知識習得にも持ってこいの季節です。学会シーズンでもあり、色々勉強していきたいと思えます。

発行：平成26年8月25日
〒002-8029
札幌市北区篠路9条6丁目2-3



発行責任者：広報委員 菅原智子
電話：011-771-5660
http://www.goryokai.com
mail：GMC@goryokai.com

「デイケア・コラボ」が新しくなりました！

当院は、退院後のフォローや外来治療の一環として、「デイケア」を併設しています。デイケアでは個々が目指す目標のサポートや生活の質の向上を目指した支援などを行っています。

「デイケア・コラボ」は、8月11日に新しいデイケア棟に引越しました。新しいコラボは、白を基調とした清潔感溢れる、広々とした環境となっていて、冷房も完備されて、快適に活動できる環境となっています。今後も更に新たな活動場所ができていく予定で、作業系やスポーツ系プログラムの充実が図られることとなります。

旧デイケアセンターには、永年に亘っての様々な思い出があり、名残り惜しい思い出も沢山ありますが、これからも進化していくデイケアの活動を創造しつつ、更に充実したデイケア活動を目指していきたいと思えます。



QCサークル大会開催しました

去る平成26年6月20日、第21回QCサークル大会が開催されました。QCサークル大会とは、Quality Control（品質管理）の略で、元々は製造業より始まり、現在では様々な第一線の職場で働く人々が、継続的に製品・サービス・仕事の質の管理・改善を行うための取り組みとして普及しています。当院では患者さん・ご家族の満足の向上及び、社会への貢献を目指し、業務改善の取り組みとして、平成16年より年2回開催しています。

今回は2病棟（急性期治療病棟）より『看護倫理カンファレンスを実施しての看護意識の変化』、3病棟（療養病棟B）より『病棟間でのルールの統一について』、ソーシャルワーカーより『新患予約導入して』の発表がありました。

どの部署も、日々業務や関わりについて、振り返り・検討・工夫を重ねていますが、部署・職種を越えて知る機会は少ないため、互いの取り組みや思いを知り、それらを分かち合う貴重な場となって

院内研修制度のご案内

当院では「臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める」という病院理念のもと、院外で行われる様々な学会や研修会への参加を奨励しています。

今回ご紹介する院内学会は、その研究発表の成果を他の職員と共有し、五稜会病院の医療・サービスの質を向上させるため年一回開催しています。今年で12回目を数え、今回は特別講演として中島理事長に「精神科医療と五稜会のこれから」をテーマに特別講演をしていただいた他、多くの職員が参加し医師・看護師をはじめその他多くのメディカルスタッフによる演題発表や質疑応答、意見交換が行われました。



部署紹介—《2病棟》

2病棟は、急性期治療（閉鎖）病棟です。このたび、新棟完成とともに引っ越しの運びとなりました。

新しい2病棟は旧棟と同じく2階にあります。休日・夜間救急に対応できるように設備を整え、個室も増えました。テイルームには伏竜川を臨める広い窓、お部屋には新しい木製の床頭台とベッド...

